

中土佐町地域公共交通会議

地域内フィーダー系統
事業評価(平成28年度)

中土佐町基礎データ

合併状況:平成18年1月に1町1村が合併
人口:7,369人(平成27年12月現在)
面積:193.40平方キロメートル

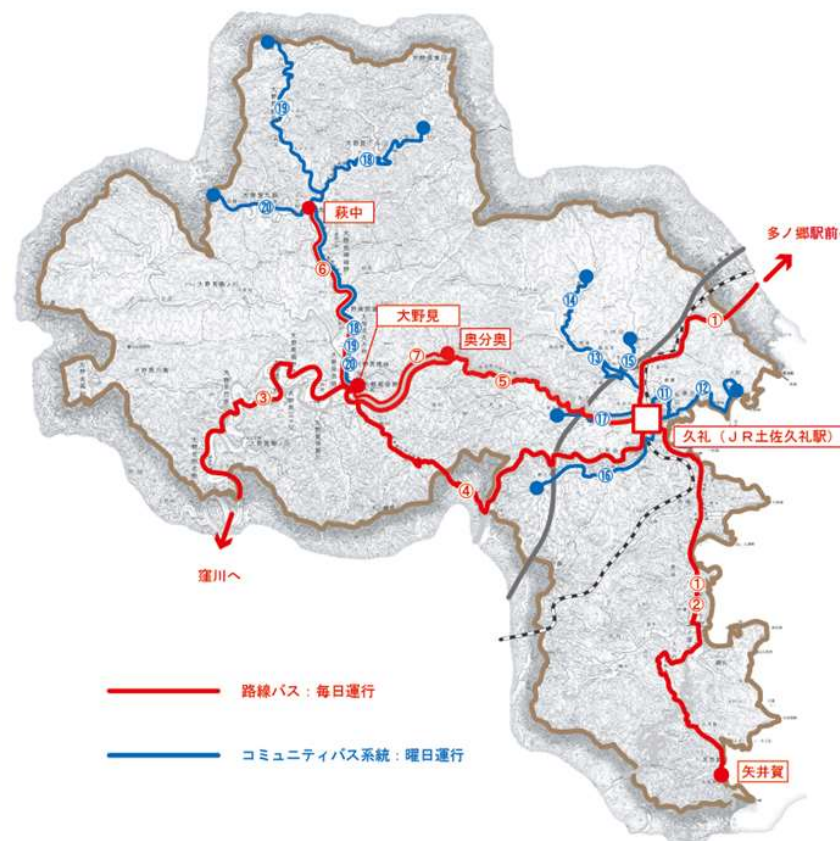
地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照

中土佐町における主な公共交通概要

- 鉄道:JR四国(土讃線)
- バス
(幹線)
 - ①窪川駅を起点とし、四万十町と中土佐町主要施設を
経路する民間事業路線
 - ②須崎を起点とし、中土佐町矢井賀を経路する民間事
業路線
- (フィーダー)
 - ・平成28年度地域内フィーダー系統として町内を運行してい
るコミュニティバスは、全10系統
久礼地区では、土佐久礼駅を起点に7系統が運行
大野見地区では、大野見保健福祉センターを起点に3系
統が運行している。
 - ・フィーダー系統
 - ⑪萩原循環線
 - ⑫大野鎌田線
 - ⑬黒石野線
 - ⑭黒石野線(楠の川)
 - ⑮松の川川崎線
 - ⑯大坂線
 - ⑰長沢線
 - ⑱下ル川線
 - ⑲萩中線
 - ⑳高樋線

中土佐町の公共交通ネットワーク図



中土佐町地域公共交通会議

地域内フィーダー系統
事業評価(平成28年度)

協議会の構成員

高知県 中土佐町 町内利用者代表
高知高陵交通(株) (株)四万十交通 (有)中土佐ハイヤー
(社)高知県バス協会 高知運輸支局 須崎警察署

前年度の事業評価における課題

現在までの運行状況と利用者・各地域でのヒアリングを通じて、著しく利用者数の少ない系統の休廃止や交通空白地域への新たな系統の確保など、引き続き各路線の状況及び利用者ニーズの把握を行い、各路線の再編・運行ダイヤの見直し等を検討していく必要がある。

定量的な目標・効果

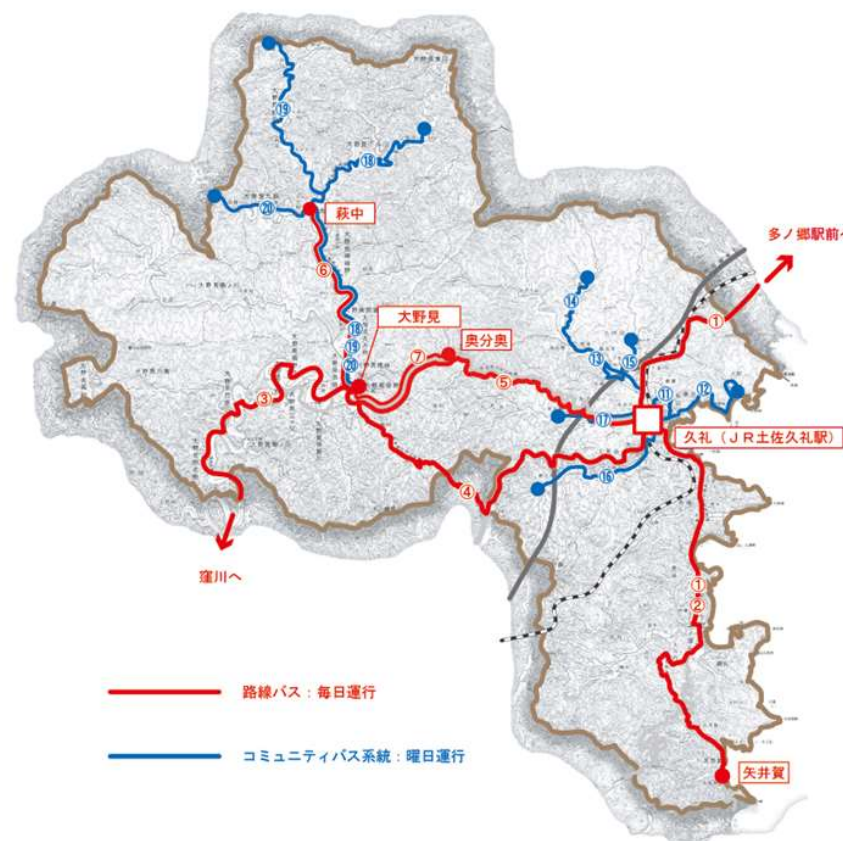
(目標)

- ・系統⑪・⑫・⑮は、1日当たりの利用者数を8人以上
- ・系統⑬は、1日当たりの利用者数を3人以上
- ・系統⑭は、1日当たりの利用者数を10人以上
- ・系統⑯・⑰は、1日当たりの利用者数を5人以上
- ・系統⑱は、1日当たりの利用者数を30人以上
- ・系統⑲は、1日当たりの利用者数を20人以上
- ・系統⑳は、1日当たりの利用者数を18人以上

(効果)

- ・各路線を維持することにより、公共交通空白地域の高齢者等の日常生活に必要な移動手段が確保される。また、路線バスと連携することにより、広域的な移動利便性が向上する。

フィーダー系統図



「定量的な目標・効果」達成のための取組

- ・路線再編について、路線バス及びコミュニティバス沿線地域の住民との説明会及び意見交換会を行った。
- ・全区間を対象とした利用者アンケートを行った。
- ・地域公共交通会議を平成28年6月に開催し、今後のフィーダー系統各路線の維持について協議を行った。

自己評価

事業実施の適切性

- ・平成27年10月1日運行からの各路線再編を実施後、利用者及びバス路線沿線地域の住民との意見交換会及び運行事業者との協議を行い、バス路線については一定の整備を図ることができた。また、JR及び幹線系統との接続ダイヤを見直し、利便性の向上を図ることができた。
- ・全体の利用者数としては、昨年度を上回っている。ただし、過半数の路線が目標値を下回っているものの、これまでにコミュニティバスを利用していなかった住民の利用増加が図られた。また、高齢者の買い物・通院等への足として機能した。

「定量的な目標・効果」の達成状況

- ・系統 ⑪萩原循環線、⑫大野鎌田線、⑬黒石野線、⑭大坂線、⑮長沢線
:年間を通して1日当たりの利用者数平均が目標値に達していない。今後、著しく利用の少ない路線については、運行曜日やダイヤの見直し及び路線の休廃止を含めて検討していく必要がある。
- ・系統 ⑯松の川川崎線、⑰下ル川線
:年間を通して1日当たりの利用者数平均が目標値に達していないものの、一定の利用者数を確保出来ている。今後、更なる利用者確保に向け、ヒアリングやアンケート調査を基にダイヤ等の調整を検討していく必要がある。
- ・系統 ⑱黒石野線(楠の川)、⑲萩中線、⑳高樋線
:年間を通して1日当たりの利用者数平均が目標を達成しており、利用者ニーズに沿った運行を実施出来ている。引き続きヒアリングや利用者アンケートを実施し、利用者数の確保に取り組む。

事業の今後の改善点

- ・町内各系統別に利用状況やニーズを細やかに把握するとともに、これに応じた運行効率向上のための路線見直しや高齢者等の移動手段確保に努め、地域公共交通の利用促進に向けた広報や地域へのヒアリング等の取り組みを引き続き進めて行く必要がある。ただし、コミュニティバスの運行にあたり著しく利用者数の少なく、運行による効果が望めない路線に関しては、休廃止を含めて検討していく必要がある。

その他PRポイント